

植樹からめばえる命 育む未来

平成23年度東通村植樹祭

6月4日(土)、平成23年度東通村植樹祭が、尻労共有地内(大沼周辺)で行われ、ボーイスカウト東通第1団、村内各漁業協同組合長、AMLS協議会、東北電力、東京電力のほか、関係者やボランティアの方々など約270名が参加しました。

この植樹祭は、森林保護と森林が作り出す水の循環による豊かな漁場造りを目的に東通村緑化推進委員会(越善靖夫会長)が平成13年度から毎年実施しているもので、今回で11回目になります。植樹会場となった大沼周辺は、湖沼群が点在する豊かな自然環境が保全されている地域で、土地所有者の尻労共有会(小笠原青春会長、会員33名)の全面的な協力を頂き、今年で7年目の植樹となりました。

植樹に先立ち、越善会長より「これまで大沼周辺に植樹された苗木は約6,600本になり、将来、この一帯は大沼と調和した素晴らしい景観を見せて

くれることと思いをさせています。豊かな森を造ることは、栄養分を多く含んだ水が川を通じて海へ流れ、豊かな漁場を造ることにつながり、この緑豊かな森を守り美しい東通村を後世に残すことが私達の責務であると思っています」と挨拶があり、続いて来賓の方々を代表して下北森林管理署飯田裕一署長から祝辞が述べられました。

東通村森林組合杉本文悦参事から植樹方法が説明され、来賓の方々によりオオヤマザクラ12本の記念植樹が行われました。その後、参加者全員で、コナラ、クヌギ、ヤマモミジの3種類の苗木500本の植樹が行われました。また、(社)国土緑化推進機構より緑の募金の助成を受けたAMLS協議会により、ヒバの苗木50本を含む350本が植樹されました。

参加者の皆さんは、緑あふれる森林の維持・再生を願いながら丁寧に植樹し、最後に越善会長と子ども達の手で記念標柱が建てられました。植樹終了後には、参加

者の皆さんに、村の木でもある「イチイ」の苗木がプレゼントされ、植樹祭が終了しました。私たちの暮らしを支え、豊かな森を守っていくため、今後も「育てる活動」に積極的に取り組んでいきます。



たくさんの方が植樹祭に参加しました



オオヤマザクラを植樹する越善会長

永年にわたる活動に表彰

東通村自衛隊父兄会

去る5月28日(土)、第53回全国自衛隊父兄会青森県支部連合会定期総会において、東通村自衛隊父兄会(会長 濱田敏)が、永年にわたり国民運動として取り組んできた「北方領土返還要求署名運動」の活動が認められ、青森県支部連合会長より表彰状が授与されました。

また、東通村支部の理事として、自衛隊父兄会の使命と認識をもって、本会育成発展に努めた功績が認められ、本会席上において濱田郁子さん(入口)が青森県支部連合会長より表彰されました。大変おめでとうございます。



表彰された濱田敏さん(上)と濱田郁子さん(下)